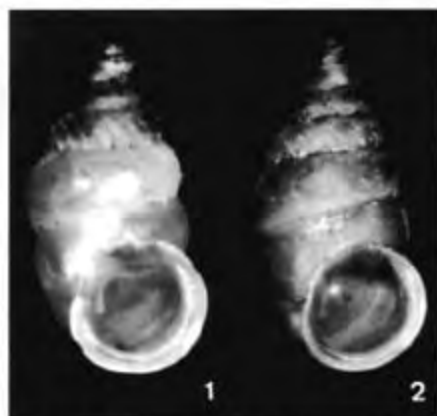


オオシマゴマガイの沖縄諸島からの記録

湊 宏・大原 健司・黒住 耐二・早瀬 善正

オオシマゴマガイ *Diplommatina* (*Benigoma*) *oshimae* (Figure 1) は平瀬与一郎によって奄美大島で得られた標本に対して、Pilsbry (1901) が命名・記載をしたゴマガイ科の微小な陸産貝類である。本種は比較的に自然度の高い環境に生息するとともに、生息範囲が狭いことと、生息密度が低いことで、希少種でもある。本種は奄美大島を中心にして“徳之島～中之島”に分布する(黒田, 1956)とされ、これまで徳之島、奄美大島、中之島、口之島では本種の生息の確認がある(Kurozumi, 1994; 環境省生物多様性センター, 2002)。しかし、徳之島より南の沖縄県の島嶼ではこれまで確認されていなかった。しかるに、黒住が1978年から渡嘉敷島や沖縄本島各所で、大原が1980年12月に沖縄本島今帰仁村で、さらに早瀬が2003年1月に沖縄本島大宜味村と国頭村で本種の生息を確認したので、本種の沖縄諸島における新分布地としてここに記録しておくたい。



Figures 1-2 *Diplommatina* (*Benigoma*) *oshimae*
オオシマゴマガイ

殻高(SH): 3 mm, 殻径(SD): 1.5 mm; 1: 奄美大島名瀬市本茶峠産, Amami-Oshima Island; 2: 沖縄本島大宜味村ネクマチヂ山産, Okinawa Island

Abbreviations: CBM-ZM: Natural History Museum and Institute, Chiba; MC: Minato Collection, Shirahama; NC-G: Nishinomiya Shell Museum

標本採集記録 (新分布地):

- ・沖縄県渡嘉敷島(青年の家北西の山地) 1978年7月7日 黒住耐二採集7個体, 標本保管(黒住耐二所蔵3個体, CBM-ZM 131453 2個体, 湊 宏所蔵2個体 MC 22026)
- ・沖縄県沖縄本島: 名護市嘉津字岳 1979年2月2日 黒住耐二採集1個体, 標本保管(CBM-ZM 131454); 国頭村与那覇岳(山頂部) 1980年5月26日 黒住耐二採集1個体, 標本保管(黒住耐二所蔵1個体); 今帰仁村今帰仁城址 1980年12月30日 大原健司採集 標本保管(大原健司所蔵2個体); 豊見城市平良グスク 1986・1987年度 貝塚発掘2個体 標本保管(豊見城市教育委員会所蔵1個体); 大宜味村ネクマチヂ山 2003年1月10日 早瀬善正採集 標本保管(早瀬善正所蔵45個体; CBM-ZM 131610 3個体; NC-G 008049 (1-3) 3個体; 湊 宏所蔵6個体 MC 23517); 国頭村比地大滝遊歩道 2003年1月9日 早瀬善正採集 標本保管(早瀬善正所蔵2個体)

考察:ゴマガイ属 *Diplommatina* の種類では体層の殻内に腔装(plica)をもつものが大半であるが、一部にはこの腔装を欠く種群がある。この形質を重視した黒田(1928)はそ

の著書「奄美大島貝類目録」の中で、オオシマゴマガイに対して新区 (Section) *Benigoma* を設けてゴマガイ亜属 *Sinica* と区別した。しかし、新区 *Benigoma* を与えただけでその区の定義を示さなかった。その後、波部 (1958) はこの *Benigoma* に、“殻は螺層内に腔壁を欠いて、殻口は広い” という説明を加えたので簡潔だがこれが *Benigoma* の定義とされる。現在では黒田 (1928) の設けた区は亜属に昇格させて、和歌山県那智を模式産地とするベニゴマガイ *D. (B.) pudica* Pilsbry, 1902 (伊豆半島産として記載されたオオヤマベニゴマガイ *D. (B.) oyamai* Habe, 1943 は本種の異名とされる) と奄美大島を模式産地とするオオシマゴマガイ *D. (B.) oshimae* Pilsbry, 1901 の2種がこの亜属に所属する (淡, 1988)。

これまで沖縄県からのオオシマゴマガイ *D. (B.) oshimae* の記録は、黒住・金城 (1988) による豊見城市平良グスクでの試掘から得られた14世紀か、それ以前の1例 (1個体) があるのみで、全く記録がなかった (黒田, 1960; 知念, 1984, 1987, 1989; 知念ら 1995) が、その報告では本種が沖縄県北部の自然林に分布していることを報告しているだけで具体的な地名の表示を示さなかった。しかし、上記の通り、沖縄県の複数地で本種が確認され (Figure 2)、沖縄本島での分布が明らかになった。これまでは分布記録が全くなかったことについては、その生息地が限られること、個体数が少ないこと、微小なことでこれまで採集の機会が極めて少なかったと解釈される。トカラ列島においては、黒田 (1956) によれば分布地に中之島の地名がみられるが、赤間 (1974) や富山 (1983) によると中之島からは本種が確認されていない。Kurozumi (1994) は口之島 (新記録) と中之島から本種を報告した。

最近になって本亜属は台湾の各地から3種も記載されており (Chang & Ookubo, 1998; Chang *et al.*, 1998; Hung *et al.*, 2001)、さらにこれらと類似の未記載種知られているという (多田, 2000) ことから、本亜属の種類がさらに増加する可能性がある。台湾に複数種が存在し、オオシマゴマガイは南西諸島に広く分布することは、本亜属の主分布域が南西諸島以南と推察される。また、ベニゴマガイ (オオシマゴマガイを含む) が紀伊半島南部、伊豆半島に飛地的に分布し、種分化していった過程には、どのような地史的背景を持つのか興味深い。

引用文献

- 赤間 正, 1974. 中之島 (トカラ列島) 陸産貝類調査報告. 生物研究会誌, (4): 2-9. 福岡大学生物研究会.
- Chang, K. M. & Ookubo, K. 1998. *Diplonmatina (Benigoma) akirai* n. sp. from Taiwan (Prosobranchia: Diplommatinidae). *Bulletin of Malacology, Republic of China*, (22): 39-42.
- Chang, K. M., Tada, A. & Hwang, C-C. 1998. *Diplommatina (Benigoma) tattakaensis* n. sp. from Taiwan (Prosobranchia: Diplommatinidae). *Bulletin of Malacology, Republic of China*, (22): 35-38.
- 知念盛俊, 1984. 沖縄の陸産貝. 全国大会記念誌「沖縄の生物」, pp. 337-355. 日本生物教育沖縄大会.
- 知念盛俊, 1987. 国頭地域の陸産貝類. 国頭郡天然記念物緊急調査II, 沖縄島国頭地域の

- 貴重動物, pp. 18-22. 沖縄県教育委員会.
- 知念盛俊, 1989. 沖縄島北部の陸産貝類・淡水産貝類. 環境庁自然保護局(編), 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究, 昭和62年沖縄島北部地域調査報告書, pp. 433-451. 環境庁自然保護局.
- 知念盛俊・治井正一・儀間一恵, 1995. 大宜味村の陸・淡水産貝類. 大宜味村の自然, pp. 295-322. 大宜味村教育委員会.
- 波部忠重, 1958. かたつむりの研究, 87 pp. 恒星社厚生閣(東京).
- Hung, C., Chang, K. M & Chang, H. W. 2001, *Diplommatina chaoi* (Prosobranchia: Diplommatinidae), a new species from Southern Taiwan. *The Veliger*, 44(1): 104-107.
- 環境省生物多様性センター, 2002. 生物多様性調査 動物分布調査報告書(上), (陸産及び淡水産貝類). 654 pp. 環境省.
- Kurozumi, T. 1994. Invertebrate fauna, mainly land mollusks, of the Tokara Island, Northern Ryukyus. *WWF Japan Science Report*, 2(2): 339-387.
- 黒住耐二・金城亀信, 1988. 豊見城村長嶺, 保栄茂および平良グスク試掘調査により出土した貝類. In: 金城亀信(編):「豊見城村の遺跡」豊見城村文化財調査報告書 第3集, pp. 137-153. 沖縄県豊見城村教育委員会.
- 黒田徳米, 1928. 奄美大島産貝類目録, 126 pp. 鹿児島県教育調査会.
- 黒田徳米, 1956. 日本及び隣接地域産陸棲貝類相(2). 貝類, 19(2): 132-147.
- 黒田徳米, 1960. 沖縄群島産貝類目録(頭足類を除く), 166 pp. + 3 pls. 琉球大学.
- 湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, 294 pp. 日本陸産貝類総目録刊行会, 白浜.
- Pilsbry, H. A. 1901. New land Mollusca from Japanese and the Loo choo Islands. *Proceeding of Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 53: 344-353.
- 多田 昭, 2001. 台湾産ベニゴマガイ亜属3種, まいご, (9): 8-10. 四国貝類談話会.
- 富山清升, 1983. トカラ列島・口永良部島の陸産貝類相. 南紀生物, 25(2): 183-190.

(湊 宏: 〒649-2333 和歌山県西牟婁郡白浜町中193・大原健司: 〒662-0934 西宮市西宮浜4-13-4 西宮市貝類館・黒住耐二: 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館・早瀬善正: 〒424-0006 静岡市清水八坂北1-10-12 東海アクトーツ)

MINATO, Hiroshi, OHARA, Kenji, KUROZUMI Taiji & HAYASE Yoshimasa: Records of Diplommatinid snail, *Diplommatina (Benigoma) oshima* Pilsbry, 1901, from Okinawa Islands.

Abstract: Specimens of the family Diplommatinidae collected from Okinawa (main island) and Tokashikijima Island, Okinawa Prefecture, between 1978-1980, in 1986 and 2003 are identified as *Diplommatina (Benigoma) oshima* Pilsbry, 1901 on the basis of shell external characters. Up to date, this species has been known only from Tokunoshima and Amami-Oshima of the Amami Islands and from Nakanoshima and Kuchinoshima of the Tokara Islands, all in Kagoshima Prefecture. We here described these specimens as the first record of this species from Okinawa Prefecture.